



飯地小学校だより
令和7年度 第6号
令和7年8月29日



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

偉大なる教室

～受け継がれる想いにふれて～

校長 下畑 茂

◇変わりゆくもの 変わらないもの

令和7年。昭和100年、戦後80年の節目に当たる年は、記録にも記憶にも残る暑い夏休みとなりました。日本の最高気温が2回も更新されました。これまで経験したことがない暑さの背景にある「地球温暖化」七夕の短冊に書かれた「排気ガスの少ない社会に」という言葉は、この飯地町においても切なる願いとなっています。学童が利用する体育館も今年から日中はエアコンを稼働。始業式では、「学ぶ」ことは、自分達の「未来の自然・命を守る」ことにつながっていることを子ども達と一緒に考えました。

夏休み中、飯地小の教育活動に関わる資料をひも解いている中で、次のような文書に目が止まり背筋を正しました。執筆された方の承諾を得ず、失礼いたしますが、紹介をさせていただきます。

飯地小中学校 PTA 文集 昭和55年3月発行より

「飯地と言えば、過疎の村・へき地の里・恵那の子ベット…と言われるけれど、少年よ、嘆くことなかれ。誇りをもて。勇気を出せ。過疎の憂い何がある。細いながらも車、バスの通る道があるではないか。へき地のみじめさ何がある。電信、電話があるではないか。マンモス学校何がよい。すし詰め教室何がよい。校舎は小さくとも、古くとも、児童生徒の数は少なくとも、机もイスも黒板も、そして立派な先生がいるではないか。

春『窓いっぱい差し込む太陽

おおらかに学べと吹き込む南風』

夏『強く、たくましく鍛えよと 励ます声は蝉しぐれ』

秋『風に舞い込むもみじ葉は

情緒豊かに育てと諭す母心』

冬『厳しさに耐えよ、忍べよと降る雪は

自然のうつ愛のむち』

大自然に包まれた偉大な学校。こんな立派な教室がどこにある。高原偉人を生ず。私はこう訴え、こう信じます」

およそ半世紀前(45年)現在の「いいじっ子サポーター」の方々が丁度、子育てをしてみえた頃。保護者、地域の方は、こうした願いのもとで信じ、見守り、育ててみえたこと。その熱量が伝わってきます。へき地教育の強み(地域性・小規模性・複式)を生かし、飯地でしかできない体験を積み重ねながら、子ども達は、人格形成の礎となる小学校時代を過ごしています。「子ども達のために力を貸します。声をかけてください」「子ども達の元気な声、姿に私たちも元気をもらっていますよ」その源流は、ここにありました。

時は流れて、世の中は変わっても、子ども達が大人になった時に「飯地小学校で学べたことが今の自分の支えとなっている」と誇れるよう、私達職員も、この熱い想いを受け継ぎ「小さな学校の偉大なる教室」となるよう、今学期も努めて参ります。(※本記載文書について、お心当たりがある方は、学校までご連絡いただけるとありがたいです)

飯地小学校運営協議会コーナー

壮健クラブ・PTA 環境整備作業 8月24日(日)開催

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

残暑が厳しい中、今年も飯地こども園との合同運動会に向けてPTA主催の環境整備作業が行われました。毎年この時期に、壮健クラブ、各地区の協力者、そしてPTAと多くの方々に、校庭・校舎の整備をしていただいております。今回は総勢148名の参加のもとで、無事に実施できました。休日の早朝より、子ども達のために多くの方にご協力いただき、誠にありがとうございました。改めて、地域と共にある学校、運動会が飯地町の地域行事として、多くの方々に楽しみにしていただいていることを感じました。

子ども達は、地域の方のご厚意を得て、これを感謝の思いに変えて、きれいになったグラウンドで運動会に向けての練習に励んで参ります。合同運動会は、10月18日(土)午前9時より行う予定になっております。

多くの方に、今年度もご参観いただけることを願っております。

